

教科（科目）	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年 必修・選択
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ ノート』 山川出版社『ダイアログ歴史総合』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①「深慮にして実践」「誠実にして勉勵」「和親にして敬愛」の教育目標の下、物事に主体的に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>②自身の健康を保ちつつ、社会的な自立を目指し、多様性を尊重しながら他者と協働して取り組む力を育成する。</p> <p>③教科横断的な視点を持ち、様々な学習活動とおして、創造力、行動力、コミュニケーション能力を育成する。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①生徒一人ひとりの目標や進路希望が実現できる教育課程を編成し、教育活動を展開する。</p> <p>②3年後の進路を見据えた学力の定着と活用に向け、ICT機器を活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を行う。</p> <p>③自己の在り方生き方を探究するため、「総合的な探究の時間」を主軸に、課題発見・解決、自己表現の育成に取り組む。</p> <p>④様々な状況や環境に対応し自己の力を向上させるため、ボランティア活動やインターンシップ、外部検定試験など、生徒が自ら挑戦できる機会となる情報を積極的に提供する。</p> <p>⑤学校行事や部活動などの生徒の主体的な活動の支援に向け、安全・安心な教育環境に努める。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

3 指導の重点

<p>①日本史・世界史という従来考えにとらわれず、世界の中の日本という視点を養う。</p> <p>②ペリーの来航以来、自由貿易体制の構築という世界の流れに日本が組み込まれていき、今日に至っているという事実を多角的な観点から理解させる。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代史上の様々な事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野からとらえている。</p> <p>また、多様な資料から歴史に関する様々な情報を得て、それを調べてまとめる技能を身につけている。</p>	<p>近現代の歴史の変化の意義や特徴を、多面的・多角的に考察し、歴史的課題を解決できる力やそれを発表することができる。</p>	<p>世界の一体化・自由貿易体制への編入に伴う近現代特有の歴史上の事象や課題にすすんで興味・関心を持ち、主体的に追求・解決しようとしている。</p>

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・レポート、ワークノート、提出物など の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査等の分析 ・授業中の発言、発表などの観察 ・レポート、ワークノート、提出物など の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表などの観察 ・レポート、ワークノート、提出物などの内容の 確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	近代化と私たち	6	【テーマ】近代化への問い 結びつく世界 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	10	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
5		4				
5	定期テスト	1			1	定期テスト
5	近代化と私たち	4	明治維新と日本の立憲体制 帝国主義の展開とアジア 【テーマ】近代化と現代的な諸課題	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	10	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
6		5				
7		1				
7	定期テスト	1			1	定期テスト
7	国際秩序の変化や大衆化と私たち	5	【テーマ】国際秩序の変化や大衆化への問い ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦（前半）	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	15	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
8		2				
9		6				
10		2				
10	定期テスト	1			1	定期テスト
10	国際秩序の変化や大衆化と私たち	5	・経済危機と第二次世界大戦（後半） ・戦後の国際秩序と日本の改革 【テーマ】国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	13	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
11		6				
12		2				
12	定期テスト	1			1	定期テスト
12	グローバル化と私たち	4	【テーマ】グローバル化への問い ・冷戦と世界経済 ・グローバル化する世界	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	13	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
1		6				
2		3				
2	定期テスト	1			1	定期テスト
2	グローバル化と私たち	2	・現代の課題 【テーマ】現代的な諸課題の形成と展望	それぞれの教材（単元）につき一時間程度で学習する。 テーマ学習については、テーマに沿ってレポートを作らせて提出させる。	4	レポート、ワークノート等 授業の取り組み
3		2				

70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・各学期（または定期考査）ごとに授業ノートやワークノートの提出があります。
- ・テーマ学習では、テーマに沿ってレポートを作成します。
- ・長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

ペリーの襲来以降の日本の近現代史を縦軸にして、19世紀以降の世界の歴史を学びます。政治的には主権国家による国際秩序の構築、経済的には自由貿易体制の確立という世界の流れを理解することができます。